

報告書抄録

ふりがな	せきのついせき							
書名	関津遺跡Ⅱ							
シリーズ名	ほ場整備関係(経営体育成基盤整備)遺跡発掘調査報告書							
シリーズ番号	36-5							
編著者名	藤崎高志							
編集機関	滋賀県教育委員会事務局文化財保護課 財団法人滋賀県文化財保護協会							
所在地	滋賀県大津市京町四丁目1番1号 滋賀県大津市瀬田南大萱町1732番2号							
発行年月	平成21年(2009年)3月							
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査面積	調査期間	調査原因
		市町村	遺跡番号					
せきのついせき 関津遺跡	しがけん 滋賀県 おおつし 大津市 せきのついせき 関津一丁目	25201	316	34° 55' 55"	135° 55' 19"	5,214 m ²	20040405 } 20060331	県営ほ場整備事業 (経営体育成基盤整備事業) 田上関津 地区工事
所収遺跡名	種類	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
関津遺跡	集落跡 官衙跡	縄文時代 弥生時代 古墳時代 奈良時代 鎌倉時代 室町時代 江戸時代		埋設土器 落ち込み 河道・溝 河道 河道 掘立柱建物・溝・ 井戸・土坑・墓・ 河道・畠 護岸施設 石列		縄文土器・磨石・ 石鏃・剥片・石核 弥生土器・砥石 土師器 須恵器・木製品 土師器・須恵器・ 瓦器・輸入陶磁器 ・漆器・銭貨 埴輪・漆器・下駄 ガラス製筭		
要約	縄文時代から近世に至るまでの遺物が出土し、主に弥生時代、鎌倉時代、室町時代の遺構を検出した。弥生時代後期を中心とする時期の遺構は、田上地域で初めて確認されたものである。鎌倉時代の遺構は、主軸方位を約40°西に傾く条里地割合わせのもの、南北方位をとるものがあり、土地利用の多様性を、また、遺物は、食膳具や煮炊具は大和型を主体とする搬入品であり、本遺跡の性格を窺わせるものとして注目される。室町時代の護岸施設は、江戸時代から関津浜として知られる港の前身施設と見られる。							